

平成23年度八重山群島病虫害発生予報第12号(3月予報)

I 3月の気象予報

向こう1か月の平均気温、降水量、日照時間の各階級の確率(%)

	平均気温	降水量	日照時間
高い(多い)	40	40	20
平年並	40	40	40
低い(少ない)	20	20	40

(平成24年2月24日付沖縄気象台発表・沖縄地方1か月予報)

平年値

	平均気温(°C)	最高気温(°C)	最低気温(°C)	降水量(mm)	日照時間(h)
八重山群島(石垣島)	20.8	23.5	18.5	131.5	112

(沖縄気象台発表・統計期間1981～2010・資料年数30年)

II 3月の発生予報および防除上の注意事項

1 さとうきび

- 生育初期におけるメイチュウ類の防除対策
 - a 2月のカンシャシクイハマキ合成性フェロモントラップによる、トラップ当たり日当たり誘殺虫数は5.7頭(前年3.0頭、平年4.3頭)と平年よりやや多かった。
 - b 2月中旬の調査の結果、新植春植圃場における芯枯茎率は1.0%(前年0.3%、平年2.6%)と平年よりやや低かった。
 - c 圃場内外のイネ科雑草は発生源となるため、除去する。
 - d 植付時や培土時に土壌害虫の防除を兼ねた薬剤(粒剤)を選定し施用する。
 - e 加害による芯枯れを防止し有効茎を確保するため、生育初期の防除を徹底する。
 - f 平成23年度病虫害発生予察注意報第2号(平成23年12月28日付)参照。
- 収穫後圃場におけるカンシャコバナネガカメムシ(ガイダー)の防除対策
 - a 収穫の際に地上に落下した卵や越冬成虫は地表や株元に残存し、収穫後の株から伸びた幼茎などで生育する。
 - b 卵の死亡率を高め、第1世代の発生を抑制するため、収穫後は耕耘および株出管理を速やかに行う。

2 マンゴー

- 炭疽病の防除対策
 - a 2月下旬の調査の結果、一部施設で発生がみられた。
 - b 本病の病原菌は花芽、花序、葉などにすでに潜在感染していることが知られており、収穫果実への被害軽減のため、今後袋がけ前までの防除対策が重要である。
 - c 罹病した新梢、残渣は速やかに施設外に持ち出し処分する。
 - d 開花～結実期には、予防効果のある薬剤を選定し、定期防除に努める。

3 オクラ

- 生育初期のアブラムシ類の防除対策
 - a 例年、トンネル被覆除去後にアブラムシ類の寄生が見られることから、シルバーポリテープ等を利用して飛来を防止する。
 - b 圃場周辺の雑草はアブラムシ類の発生源となるので除草する。
 - c 多発すると葉は萎縮し、初期生育に影響を及ぼすので、早期発見・早期防除に努める。